

平成25年行政事業レビューシート

(厚生労働省)

事業名	実践的な手術手技向上研修事業		担当部局庁	医政局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度～		担当課室	医事課		課長:北澤 潤	
会計区分	一般会計		政策・施策名	I-2-2 医療従事者の資質の向上を図ること			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	「明日の安心と成長のための緊急経済対策」における構造改革特区に係る臨時提案等に対する政府の対応方針(平成22年6月2日構造改革特別区域推進本部)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	医師の医療技術の向上及び国民に対する安全・安心な医療の提供を図るため、医師に死体を利用した実践的な手術手技を習得させるための研修体制を整備する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	現在は一部の大学で限定的に行われているサージカルトレーニングの取組について、「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」を踏まえて、より多くの医師が参加し、その手術手技の向上につなげられるものとするため、他大学や医療機関の医師を含めて受け入れる取組を支援するとともに、トレーニングの効果や運営上の問題点等について整理・検討を行う。 (委託先) 医科系大学						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求
		補正予算			54	52	44
		繰越し等					
		計			54	52	44
	執行額			40			
	執行率(%)			74.1%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	研修参加者数	成果実績		-	-	756	前回調査以上
		達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	事業実施団体	活動実績 (当初見込み)	人	-	-	6	6
						(-)	(-)
単位当たりコスト	6,720千円(円/施設)		算出根拠	平成24年度執行額/平成24年度実施施設数			
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	衛生関係指導者養成等委託費	52	44	受益者負担導入により基準額を削減			
計	52	44					

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国 必 費 投 入 の	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	近年、医療安全への社会的な関心が高まるとともに医療技術の高度化に伴い、医師の手術手技の向上が求められており、医師の技術向上に資する重要な事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	全国的に展開する必要があるため、国で実施すべき。		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○	医師の医療技術の向上及び国民に対する安全・安心な医療の提供を図るために重要な事業であり、優先度が高い。		
事 業 の 効 率 性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	公募を行い、応募団体から提出された企画書等の評価結果に基づき実施団体を選定している		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	交付要綱において補助対象、補助率等を定めており、負担関係は妥当である。		
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○	交付要綱に定められた合理的でかつ必要な経費に限られているため、単位当たりのコスト水準は妥当である。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—	—		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	交付要綱等において、真に必要なものに限定している		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		○	執行率は7割を超えており概ね妥当なものである。		
事 業 の 有 効 性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	医師の医療技術の向上につながる事業であり、実効性の高い手段となっている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		—	—		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	実施団体は実績報告の中で事業の検証を行うこととしている。		
重 複 排 除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—	—		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
	—	—	—			
点 検 結 果	<p>・実践的な手術手技向上研修事業については、死体を利用した実践的な手術手技を習得させるための研修体制を整備するものであり、医師の医療技術の向上及び国民に対する安全・安心な医療の提供を図るために必要な事業である。</p> <p>・平成24年度において研修の参加者は756名となっており、多くの医師が参加したと考える。</p> <p>・なお、平成26年度の概算要求においては、受益者負担導入により基準額を見直すこととした。</p>					
	<p>このような研修は関係機関が有料で開催するように改めるべきである。(長崎、井出)</p>					
行政事業レビュー推進チームの所見						
事 業 内 容 の 改 善	<p>実践的な手術手技向上研修事業については、受益者負担の在り方を踏まえた見直しの観点から、補助単価の設定を見直すべき。</p>					
	<p>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</p>					
縮 減	<p>平成26年度概算要求においては、受益者負担導入により基準額を見直し、予算の縮減(25年度予算額から▲9.1百万円)を行っている。</p>					
	<p>備考</p>					
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	—	平成23年	新24-0004	平成24年	新24-0003

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省
40百万円

【補助】

A. 医科系大学機関(6)
40百万円

(事業概要)

医師に死体を利用した実践的な手術手技を習得させるための研修体制を整備し、トレーニングの効果や運営上の問題点等について整理・検討。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

A.学校法人 東京医科大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
需要費	消耗品費	5			
役務費	通信運搬費・雑役務費	2			
旅費	講師旅費	1			
その他	諸謝金・賃金	1			
計		9	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 においてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	学校法人 東京医科大学	サージカルトレーニングの効果や運営上の問題点等について整理・検討	9		
1	国立大学法人 千葉大学	サージカルトレーニングの効果や運営上の問題点等について整理・検討	9		
2	北海道公立大学法人 札幌医科大学	サージカルトレーニングの効果や運営上の問題点等について整理・検討	8		
3	国立大学法人 東北大学	サージカルトレーニングの効果や運営上の問題点等について整理・検討	6		
4	国立大学法人 岡山大学	サージカルトレーニングの効果や運営上の問題点等について整理・検討	4		
5	国立大学法人 愛媛大学	サージカルトレーニングの効果や運営上の問題点等について整理・検討	4		